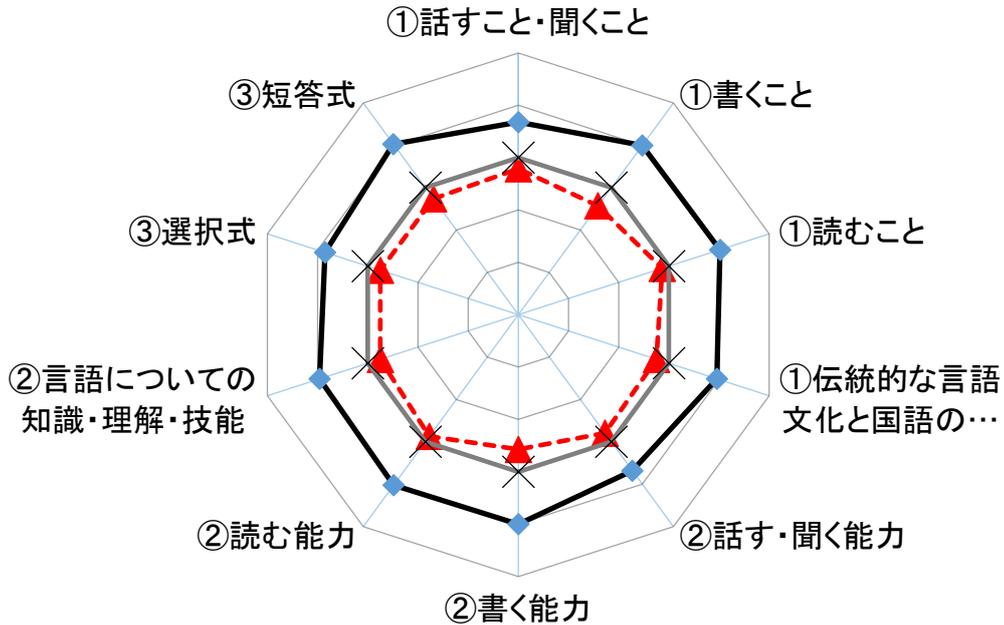
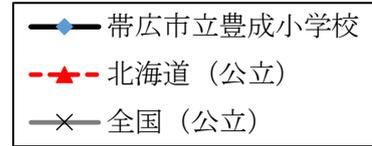
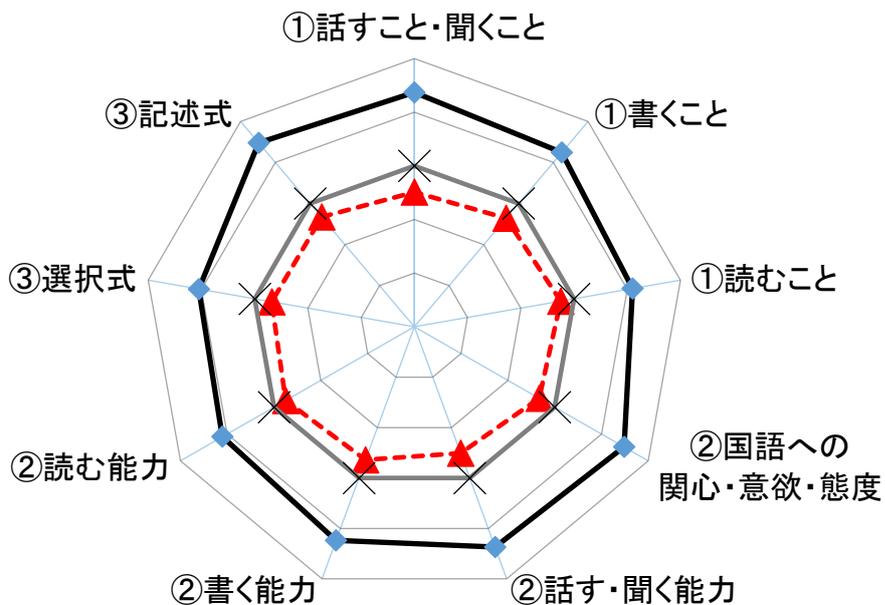


国語 A



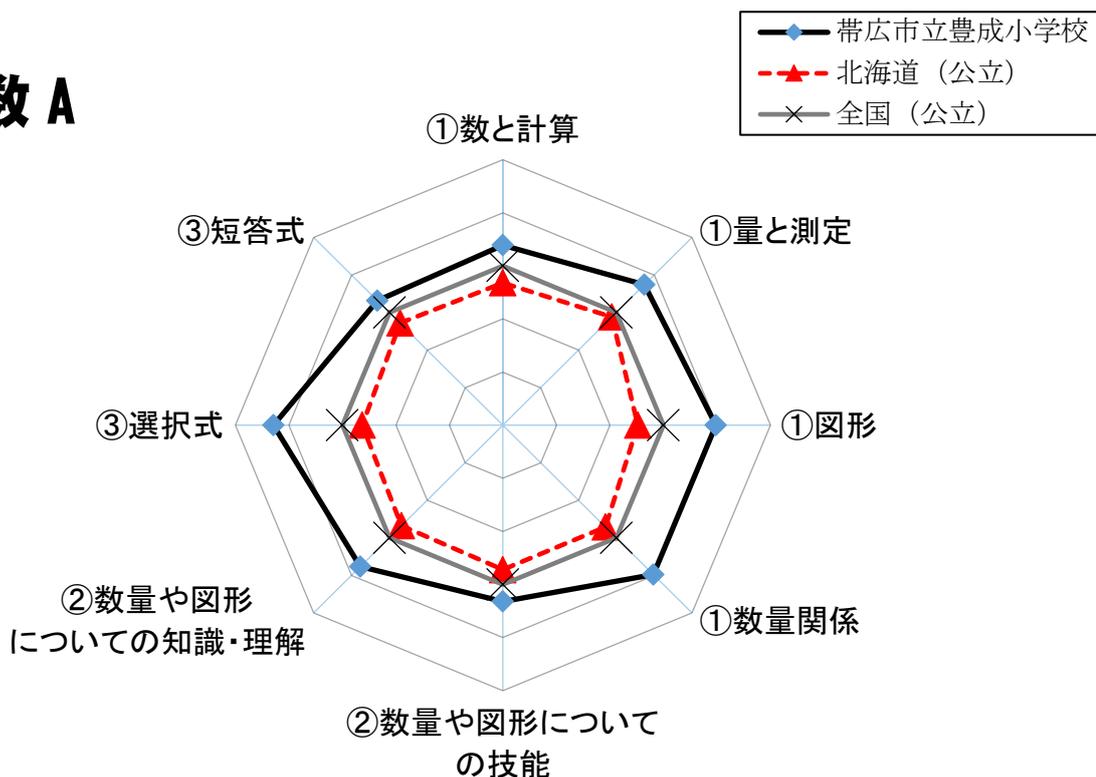
全ての項目において、全道・全国の値を大きく上回っており、良好と言える。特に「読む能力」においては、校内研修で進めている「文章全体をとらえる力を身に付けさせる読み方」の取組の成果が出ていると思われる。「話す・聞く能力」については、自分の考えをもたせ、表現する場を意図的に作り、積極的に話し合うの中で力を付けていく必要があると考える。

国語 B



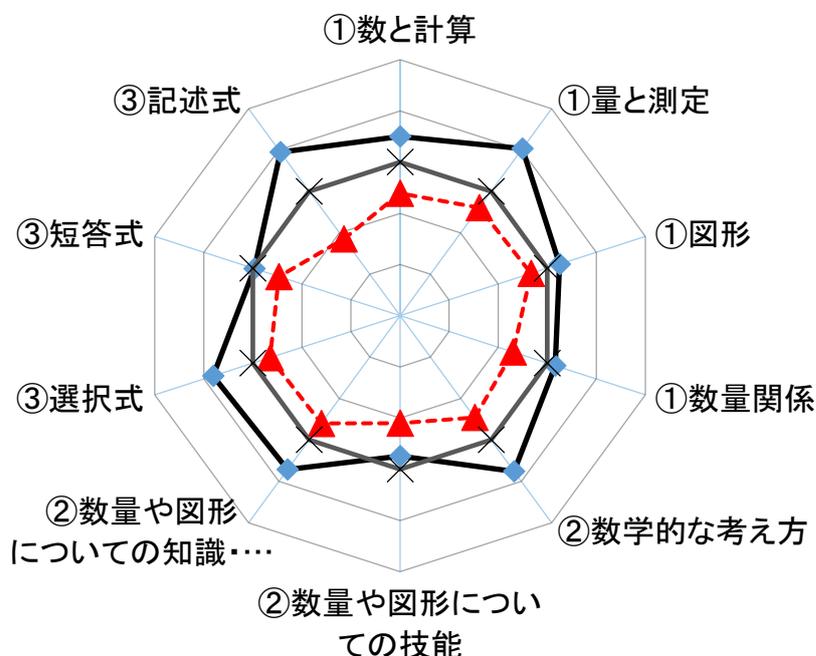
全ての項目において、全道・全国の値を大きく上回っており、良好と言える。「記述式の問題」は、特に高い値となった。自分の考えを明確にし他者の考えと比較したり、文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえたりする力を身に付けさせる授業を積み重ねてきた成果と考える。

算数 A



全ての項目で、全道・全国の値を上回っており、良好と言える。特に「数量関係」の値は高く、「分かる楽しい、力の付く授業」の積み上げとともに、家庭学習の継続した取組を通して、基礎基本の定着を図ってきた成果と思われる。

算数 B



全ての項目で、全道・全国の値と同等かそれを上回る傾向にあり、良好であると言える。しかし、「図形」に関する問題の値はやや低くなっている。立体に触れたり、動かしたりして、面や辺の位置関係、辺や角の大きさに慣れていくとともに、作図学習等をより丁寧に行う必要があると考える。

「数学的な考え方」や「記述式の問題」の値が比較的高く、立式までの過程やどのようにして考えたのかをしっかりと根拠をもって説明し、交流し合う学習形態を意図的に授業に取り入れている成果であると考えられる。